

【プロジェクト報告】

ピア・サポートによる留学生の学習支援

— 2022 年度の成果と課題 —

金 桂英・金丸 巧・徳田 恵・村上 智子

本稿は、山梨学院大学グローバルラーニングセンターの2022年度ピア・サポート活動の取り組みについて報告するものである。まずピア・サポート活動のサポート体制を述べ、次にサポート管理シートと勤務報告書を用いた取り組みおよび事前研修と事後研修について報告する。最後に、本活動の2022年度の課題と今後の展望を示す。

キーワード：留学生，日本人学生，学習支援，ピア・サポート

1. はじめに

山梨学院大学グローバルラーニングセンター（以下、GLC）では、留学生受け入れ体制整備の一環として「日本語サポートデスク」を2019年に開設した。「日本語サポートデスク」は、GLC日本語常勤教員による専門的サポートと本学の学生によるピア・サポートの二種類の活動形態をとり、そのうちピア・サポートは2020年度に本格始動した。

学生によるピア・サポートでピア・サポーターに期待されるのは、「大学の先輩として情意的なサポートをすること、留学生支援を通じて『やさしい日本語』を活用した意思疎通の力を醸成し、言語文化背景の異なる人々と学び合う国際共修の素地を形成することである」（金・トンプソン，2022, p.22-23）。また、「支援者・被支援者を超える互恵的関係と自己理解の促進が期待される」（トンプソン，2021, p.41）。これらを実現させるために、ピア・サポーターに、サポート活動前の昼礼りへの参加と勤務報告書の作成を義務づけ、また学期のサポート開始前と終了後に事前・事後研修（年4回）を実施することで、より質の高いピア・サポートの実現および学びの促進を図っている。

本稿では、2022年度のピア・サポート活動の取り組みについて報告し、その成果と課題について示すとともに、今後の展望を述べたい。

2. 2022年度の取り組み

2.1. サポート体制

ピア・サポーターは、本学の正規生で、法学部、経営学部、スポーツ科学部および大学院に所属していること、勤務開始の時点で入学後半年経過していることが応募条件となる。留学生は日本語の必修科目を修了後に応募できる。なおピア・サポーターは大学と雇用契約を結び、賃金が支払われる。以下、年度別に活動したピア・サポーター数を表1に示す。括弧内の数値は、ピア・サポーターとして活動した留学生の数である。2022年度前期は33名、後期は29名が勤務した。

ピア・サポートによる留学生の学習支援 — 2022 年度の成果と課題 —

2022 年度のピア・サポーターのうち 9 名は留学生で、うち 4 名は 1 年生の時にサポートを受けた経験があった。なお、ピア・サポーター数は 2020 年より若干増加傾向にある。

表 1 年度別ピア・サポーター数

2020 年度		2021 年度		2022 年度	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
22(3)	23(3)	20(6)	29(6)	33(9)	29(9)

ピア・サポート活動は、ランゲージコモンズ「LaCoMo」内にある Japanese Cafe において行われた²⁾。ピア・サポートの流れは、次の通りである。学期開始前に予めピア・サポーターと留学生を教員がマッチングし、授業期間の第 4 週目から第 15 週目の月～金曜日の昼休みにサポートを実施する。サポーターの勤務時間は 12:00～13:00 の 1 時間だが、そのうち実際に留学生のサポートを行うのは 12:15～12:55 の 40 分間であり、サポート開始前の 15 分間には昼礼を実施している。昼礼には活動状況を管理する各曜日の担当教員が関わっている。

2022 年度に支援を受けた留学生数は、前期が 87 名（全員 4 月入学）、後期が 50 名（9 月入学：36 名、入学後 2 学期目：14 名）であった。このうち入学後 1 学期目にあたる 4 月生と 9 月生（以下、新入留学生）はサポートを受けることが必須で、2 学期目にあたる留学生は自らサポートを希望（以下、ピア・サポート希望留学生）した。また、2022 年度には前年度の問題点を改善し、支援体制を変更した。2021 年度は 1 名のピア・サポーターが留学生 2 名を同時にサポートしていた。新入留学生は、サポート内容が日本語科目の課題と紐づいていたので、留学生 2 名に対し同じ内容のサポートを同時に行うことに問題はなかった。一方、ピア・サポート希望留学生は、留学生間でサポート内容が異なったため、ピア・サポーターからは 2 名を同時に支援することが難しいという意見があった。そこで、2022 年度には、ピア・サポート希望留学生 14 名については、1 対 1 で支援を行うことにした。その結果、担当学生の特長や学習状況を理解しながら学生に合わせたサポートができたという声が聞かれた。

2.2. サポート管理シートと勤務報告書

ピア・サポーターには、サポート管理シートと勤務報告書の提出が義務づけられている。サポート管理シートは、毎回のサポート内容をピア・サポーターと留学生が確認し合うことを目的として 2022 年度から新たに導入したものである。記述すべき内容は、①今学期の目標、②学習計画、③実際の支援内容であり、①と②は、第 1 回目のサポートで担当留学生と相談しながら記入することとしている。本シートを用いることで、サポート終了前に、次週の学習内容を相互に確認することができる。

勤務報告書は、ピア・サポーターの本活動への内省を促すことを目的としている。内容は、①今週のサポートでどのような工夫をしたか、②サポートでうまくいった

2022 後期 ピア・サポーターの名前: []

サポート管理シート

今学期の目標: N2 の合格
= 聞くの学習につなげる。(全読書の)

担当留学生の名前: []

日本語クラス: []

日付	学習計画	実際の支援内容
10/20	今学期の目標、目的	確認
10/29	音読練習、読書	音読練習、日本語の学習の進捗確認
11/5	プレゼンテーションの練習	
11/10	音読練習 1/2 の音読	音読練習
11/16	授業の質問対応	音読練習
11/23	授業の質問対応	問題集 (JLPT) の確認
11/30	音読練習 10 課	空席
12/7	音読練習 11 課	音読練習
12/14	音読練習 12 課	空席
12/21	4/9 の 読書 発表練習	4/9 の 読書練習
1/11	音読練習 10、11、12 課	4/9 の 発表練習
1/17	音読練習	音読練習

図 1 サポート管理シート

ことと改善すべきこと、③その他（相談したいことや不安なことがあれば書く）である。2021年度は当時本学のLMS（学習管理システム）であった「YGU manaba」を利用して勤務報告書を提出してもらっていたが、2022年度からはSlack（ビジネス用のメッセージングアプリ）に勤務報告書を書き込めるようにした。これには、書き込みのしやすいアプリを利用することで、教員とピア・サポーター間で情報共有をしやすくするという意図があったが、その手軽さゆえに簡単な報告で済ませ、内省が深まらない例がみられた。そこで、2022年度後期から紙媒体の勤務報告書に切り替えた。ピア・サポーターには毎回のサポートが終わった後に、サポート管理シートと勤務報告書に記入し、担当教員に提出してもらった。教員は報告書を確認し、必要に応じてコメント（図2赤字部分）を記入し、翌週のサポートの前にピア・サポーターに返却した。勤務報告書を紙媒体に変更することにより、活動を詳細に記述する学生が増え、内省が深まる様子がみられた。図2はその例である。「自分も学びながらサポートをしました」で終わるのではなく、そのあとに、「コミュニケーションを取りやすい環境づくり&互いに教え合い、学び合い、文化の尊重」と、記述が追加されている。

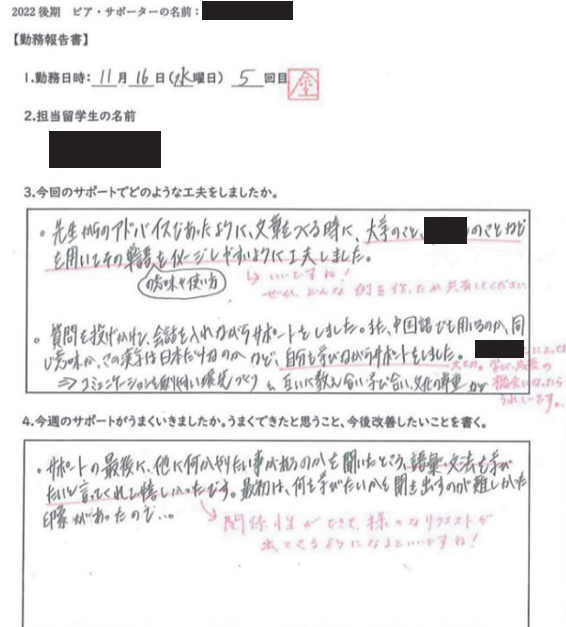


図2 勤務報告書

これは自身の行動を意味づけるものであり、内省を深めたことが推察される。

また、サポート管理シート、勤務報告書、『「日本語サポートデスク」ピア・サポーターハンドブック2022』（以下、『ハンドブック』）をファイルに綴じ、毎回のサポート開始前に教員がピア・サポーターに渡した。サポートの心得や方法が詳細に書かれた『ハンドブック』を綴じることで、ピア・サポーターがサポートで困った際に参照できるようにした。

2.3. 事前研修と事後研修

学期のサポート開始前には事前研修、1学期間の勤務終了後には事後研修を実施した。ピア・サポーターには1学期間に2回（1年間に4回）の研修への参加を義務づけている。

2021年度のピア・サポート活動において、曜日によってはピア・サポーター間の交流が少なく、学び合いが生まれにくいことがあった。そこで、事前研修を2日に分けて実施することにし、1日目は活動方法やサポート内容、ピア・サポートの心得、ピア・サポートに使える会話要素（『ハンドブック』から抜粋）などの確認を、2日目は同じ曜日に活動するサポーターを知ることを研修の目的の一つとし、勤務曜日ごとに分かれて同じ曜日に勤務するピア・サポーター同士の親睦を深める活動を行った。事前研修の感想には「サポートする留学生だけでなく、同じ曜日のサポーターや、ほかのサポーター、自分が担当していない留学生とも仲良くなりたいと思っているから研修で会話する機会があってとても良かったです。」という記述があった。事前研修でピア・サポーター間の関係性構築を促進する環境を作ることができたのではないかと思われる。

事後研修は、ピア・サポーターがサポート活動を通して得られた気づきや学びなどを整理する

ことを目的として行われた。具体的には、サポートを始める前にはどのような期待と不安があったか、サポートを行う際にどのような課題があったか、サポートを行う際に何を大切にしていたか、ピア・サポート活動を通してどのような気づきや学びがあったかについて話し合った。事後研修を通して、ピア・サポーターは自らの活動をふりかえるとともに、他のピア・サポーターの経験を聞き、教員や仲間からフィードバックを得ることにより、自身の成長や実践したことを具体化することができた。

また、2022 年度前期にピア・サポート活動を欠席しがちな留学生が一定数いたので、前期終了後の事後研修において、「留学生が、『行きたい』『行くべき』『行く価値がある』と思えるように、どのような工夫ができるか」について議論した。話し合いでは、次回やることを明確にして伝える、他のサポーターや留学生との交流の機会もあるといいのではないかと、などの意見があった。このように、ピア・サポートの在り方を考える活動を取り入れることにより、ピア・サポート活動において工夫すべきことについて考える機会となっていた。

3. 今年度の課題と今後の展望

報告の通り、2022 年度ピア・サポート活動において様々な取り組みを行った。その結果、ピア・サポーターの内省が深まり、サポーターの学びを促すことに繋がっていたと考えられる。一方で、今年度の活動において、欠席しがちな留学生が一定数いた。また、2.1. で述べたように、後期にピア・サポートを受けたい学生を募集していたが、ピア・サポート希望留学生は 14 名のみで、2021 年度のピア・サポート希望留学生 63 名に比べると、大幅に減少した。

今後、ピア・サポート活動に積極的に参加した学生にインタビュー調査を行い、留学生がピア・サポートをどのように捉え、どのように活用したかを明らかにしたい。また、欠席が多かった留学生にも聞き取りや面談を行い、欠席の要因を明らかにする。そして、その結果を次年度のピア・サポート活動に活かしていきたい。

注

- 1) 昼礼の目的や内容などは、金・トンプソン (2022) を参照されたい。
- 2) 2022 年度後期からスポーツ強化選手対象の日本語科目に、1 コマに 1 名のピア・サポーターが入り、授業内で学生を支援していたが、紙幅の関係上、活動の詳細な記述は割愛する。

参考文献

- 金 桂英・トンプソン 美恵子(2022). 「日本語サポートデスク」の取り組み — 3 年間の活動状況とその成果 — 国際共修・語学教育実践, 創刊号, 21-24. <http://id.nii.ac.jp/1188/00003924/> (2022 年 2 月 9 日)
- トンプソン 美恵子(2021). 留学生の学習支援を通じた日本人学生の学び — 「日本語サポートデスク」ピア・サポーターの事例から — 山梨学院大学経営学論集, 2, 41-52.